

明応地震津波に関する東海地域での現地調査結果について(その6)

久永哲也*(1)・内田篤貴(1)・原田怜(2)・小川典芳(2)・浦谷裕明(3)・武村雅之(3)・都築充雄(3)

(1)日本物理探査株式会社 (2)中部電力株式会社 (3)名古屋大学減災連携研究センター

§1. はじめに

筆者らは、これまでに、東海地域における明応年間の津波被害について、現地調査を行うことで、1498年明応地震津波の震源像・波源像について検討すると同時に、明応年間に発生した他の災害との混同について示唆してきた(既報告～その5)。

本報告では、これまでの調査結果に基づき、駿河湾沿岸部における1498年明応地震津波被害を、他の歴史地震津波の被害状況と比較することで、1498年明応地震津波の震源像・波源像を検討する。

§2. 駿河湾沿岸部の被害状況の比較検討

駿河湾沿岸部の①仁科, ②大田子, ③小下田, ④八木沢, ⑤小土肥, ⑥戸田, ⑦江梨, ⑧清水, ⑨焼津について被害状況を比較検討した。

①「寺川の大堰に達した」と記録され、遡上高さ9.6mとされるが、明応当時の寺川の大堰の位置等は不明であり、遡上高であることも踏まえ、現在の堰堤の標高を代表的な波高として扱うことは過大となる可能性がある。「寺川以下の田園が浸水した」とされる安政東海津波と同等の規模であったと考えられる。

②多胡神社の文亀三年の棟札に「津波以降再興された」と記録され、浸水高さ10m程度とされる。文亀三年の移転先が、大田子山崎(標高7~8m)と確認したが、明応当時の鎮座地は不明であった。津波で被災して移転したことから、山崎よりも海側にあったとも考えられる。浸水高4.5~5mとされる安政東海津波と、ある幅の中で同等の規模であったと考えられる。

③「丁の田は津波のため流され、人家は上の方に移った」とあり、丁ノ田集落跡の標高から浸水高15.0mとされる。この津波について、明応津波・安政東海津波・時期不明とする資料が存在し、留意が必要である。他の歴史津波の被害は知られていない。

④妙蔵寺では、「小山田川を遡上、榎木の枝に海藻が引っかかった」という伝承があり、浸水高さ19m以上とされるが、門前の石碑や、ご住職のお話から、安政東海津波に纏わる伝承とされる。また、妙蔵寺は永正三年(1504)の開基であり、開基前の伝承とは考えにくく、八木沢における明応津波の規模を推定することはできない。

⑤栄源寺の観音像に関して、「三十数名の死者を出し、多くの財産まで失った」、小土肥八幡宮(境内の標高14m)の「松の木にタコがひっかかった」という伝承から、浸水高さ18mとされる。両者の標高差はほとんどなく、八幡宮の伝承のような津波があれば、栄源寺も被害

に遭ったと考えられるが、これと整合しない。安政東海津波による土肥の波高は4.5~6mとされ、明応津波による被害様相は明確でないが、概ね同等の規模であった可能性は十分に考えられる。

⑥明応津波のとき、ヒラメが打ち上がった場所が「ヒラメ平」と呼ばれ、その標高から浸水高さ36.4mとされている。この伝承は「何百年か何千年前の大昔」のこととされ、時期は特定されていない。また、御浜岬にある諸口神社(標高4~5m程度)には、応永八年(1401)の棟札と鰐口が現存し、「ヒラメ平」に達するような津波の規模を想定することには疑問が残る。安政東海津波による浸水高は4m程度とされ、明応年間に諸口神社の棟札等の流失がなかったことを考えると、同等の規模であったと考えられる。

⑦「江梨鈴木氏の家宝等が流失した」等の記録や伝承が残され、鈴木氏の館が海蔵寺の位置にあったとし、浸水標高は10.9m~12.6mとされる。大瀬神社には、明応以前に鈴木家の家宝が奉納された記録や、境内に鈴木家館跡(標高5m程度)があることから、明応津波の規模を現・海蔵寺の位置から推定する明確な根拠は確認できなかった。

⑧海長寺では、「諸堂・大坊・寺中がことごとく破損した」とあり、既往研究の一部では波高が評価されるが、『日海記』の記述から、海長寺(地盤高4.5m程度)に津波被害がなかったことを確認した。宝永津波では波高4~5m、安政東海津波では波高3m程度とされる。明応津波では海長寺には津波被害はなかったと思われ、ほぼ同等の規模であったと考えられる。

⑨小川湊では、「林叟院の旧地は海となった」、「上行寺(清水区海長寺の末寺)の諸堂が悉く流失した」、等の記録から浸水高さ6.3mとされる。林叟院の旧地は、近年までは海底に山門・礎石が残っていたことから、海底地すべりのような災害に遭い、地盤が沈降したことで海中に没したと考えられる。

§3. まとめ

歴史地震津波における駿河湾沿岸部全体の被害の特徴は、ほとんどの地点で宝永津波による被害が知られていない一方で、安政東海津波による被害の様相はよく記録されている。明応津波の被害様相は、当時の地形状況等、不明確な点もあるが、概ね安政東海津波と同等の規模の津波であったことを示唆している。これらのことから、駿河湾沿岸部に影響する明応地震津波の震源像・波源像は、安政東海津波と類似したものであったと考えられる。